

相模原法人会「危機管理セミナー」を支援



講演に真剣に聞き入る参加者たち

神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 林2陸尉）は、12月2日（金）、大野台第一自治会館（相模原市南区）で実施された相模原法人会主催の「危機管理セミナー」の支援を行った。

同セミナーでは、第4施設群本部第3科長（滝口3陸佐）が講師として、予想される首都直下型地震が発生した際の防衛省の役割、自衛隊の任務や行動などを中心に講演するとともに、合わせて昨年の関東・東北豪雨や4月に発生した熊本地震での災害派遣活動について紹介した。特に、地震発生時の市の危機管理や市民一人ひとりができる災害時の防衛策に話が及ぶと、参加者は真剣な表情で聞き入り、備えの必要性を再認識していた様子であった。

相模原地域事務所は、「今後も各種イベントの支援を積極的に行い、地域住民に自衛隊の活動に対する理解を深めてもらえるよう努力する」としている。

CH-47J体験搭乗

神奈川地本カレッジ防衛モニター 清水 丈太郎



CH-47 をバックに集合写真



機内の様子

12月11日（日）、カレッジ防衛モニターの活動として、入間基地で行われたCH-47Jの体験搭乗に参加した。

当日は、天候にも恵まれた絶好の飛行日和で、他県の地本からも多くの人々が参加していた。搭乗前の安全教育も終わり、いよいよ搭乗。CH-47Jと言うと、これまで映画で見たような大量の物資を積んで運ぶというイメージであったが、実際に機内に入ると見ると、体験搭乗ということもあり、両サイドに座るスペースがあるだけのシンプルな空間が広がっていた。

今回の飛行ルートは、入間を離陸後、スカイツリー付近を通過して再び入間に戻ってくる約20分程のフライトであったが、電車移動に慣れているせいか東京までは意外と近いなと感じた。また、自身の航空自衛隊のイメージは、戦闘機や輸送機などの固定翼機が中心であったが、回転翼機も重要な役割を担っていることを学ぶなど、とても有意義な体験をすることができた。